

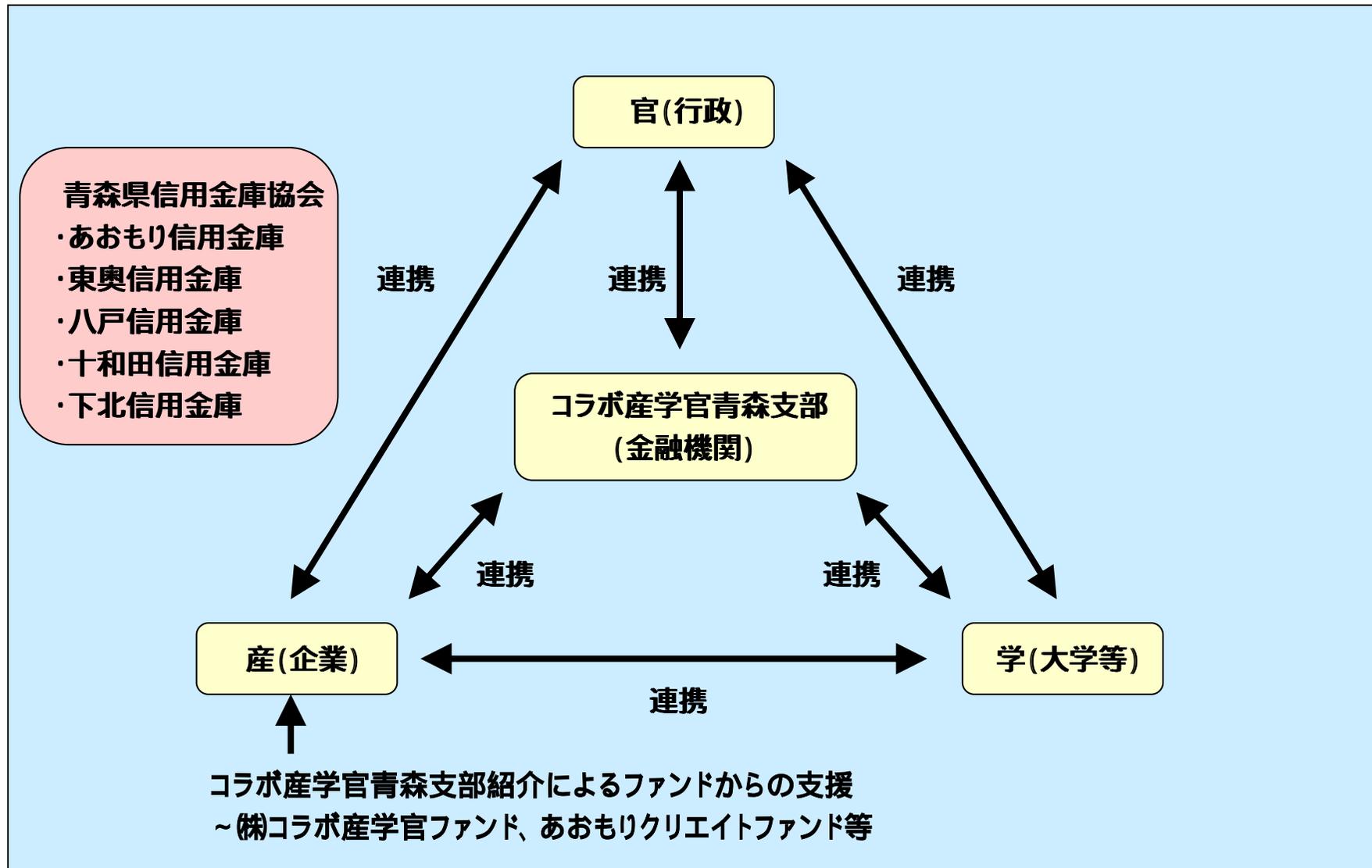
・地域の面的再生・地域活性化につながる多様なサービスの提供

コラボ産学官青森支部 具体的活動と成果

(金融機関名) あおもり信用金庫

1. 動機(経緯)	<p>青森県の産業構造は製造業が低くなっており、この構造を変革するためには、経営革新や青森県ならではの技術の確立・蓄積が必要。しかし、これまでは、実効性のある支援や連携が不足していたので、金融支援機能や相談機能等を担う支援組織として、青森県信用金庫協会が設立主体となり、平成17年10月、産学官連携による企業育成の先駆者的存在で、そのノウハウを持つ産学官連携活動組織「コラボ産学官」(本部東京)の全国初の地方支部として、「コラボ産学官青森支部」を設立した。</p>
2. 概要	<p>「コラボ産学官青森支部」は、青森県、大学、商工会議所等との連携を深め、県内の会員と協力して、産業振興を図るための活動を展開している。</p> <p>具体的には、研修会に参加した経営者から得た企業情報、技術相談をもとに、連携して成果が上がるよう支援している。</p> <p>ステップ1 開発したい新商品・新サービス等のアイデアを具体化する ステップ2 会員の事務所、工場に出向いて継続的に相談に乗る ステップ3 問題解決のため産学官金の担当者と同行する</p> <p>産学官金(金融機関)成功の法則は、300件の小さな成功事例を積み重ね、その小さな成功の中から29件のちょっと凄いネという地方版成功事例が出る。そして、1件の全国的大成功の事例が出現する、そのような努力を継続することが大切だと考えている。</p>
3. 成果(効果)	<p>産学官金の連携による成果としては、個人事業主の会員が大学との共同研究により社会に役立つ商品開発を進めていたが、販路が見つからないという事例に対し、産学官金からの商品改良、販路開拓等のアドバイスにより、ついに新会社を設立するまでになったという成功事例もある。</p> <p>やはり、産学官金の各機関が県の産業振興のため、情報の共有と支援等について常に交流を図り、製造業を中心とした経済波及効果の高い第2次産業育成に力を注いでいる。</p> <p>今後は、商品開発、技術相談をベースとした運営に、IT活用による新しい経営基盤の構築、経営戦略立案からその具体化のためのIT戦略等の導入支援が可能となり、会員企業の持続的な発展が期待される。</p> <p>産学官金連携の案件及び成果は21件あり、協力いただいている機関は、地方自治体、公設試験研究機関、大学、21あおもり産業総合支援センター、商工会議所等。</p>
4. 今後の予定(課題)	<p>現在推進している県内各機関との連携をさらに深め、迅速に産業振興に努めていかなければならないのはもちろんだが、今後の大きな課題は、県外市場を開拓するために不可欠となる、会員の「企業マッチングPR情報」の早期作成である。全会員200社弱の「企業マッチングPR情報」の完成が産学官金連携の重要ポイントとなる。「企業マッチングPR情報」には、ビジネスプランを基に、「こんな事業をしています」、「ここが強みです。強みを活かした連携が可能です」、「共同研究などの現状等」が記載されている。</p>

コラボ産学官青森支部 (青森県信用金庫協会) 組織図及び関連図



青森方式で連携に成果

